

## 平成31年2月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成31年2月25日（月）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>米澤新聞社、山形新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、読売新聞、  
置賜日報デジタル

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 東北中央道の山形方面の開通に向けて、期待と課題をお願いします。
- (2) 新設米沢市立病院を結ぶ既存道路とのアクセス道路の整備について、どのように考えておられますか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、平成31年2月の定例記者会見を始めさせていただきます。この度は、二つほど質問を頂戴しております。初めに市長からお答えさせていただきます。

○市長

よろしくをお願いします。まず、一つ目の「東北中央道の山形方面の開通に向けて、期待と課題をお願いします」という質問についてです。一昨年には、東北中央道の福島—米沢間が開通し、昨年開業した道の駅米沢にも福島や北関東ナンバーの車が増えてきており、数多くご来場いただいているということでありました。山形方面への高速道路は今年度中に開通するという事はお聞きしておりますが、まだ正式な日にちはお知らせいただいております。この高速道路が開通しますと、山形やその先の仙台ともつながります。そして、仙台からは東北自動車道で福島ともつながり、山形—宮城—福島—福島の循環高速道路ができあがるということになります。

福島—米沢間の開通は福島圏域や北関東圏域からの車の流入、あるいは企業誘致などに大きなメリットがありました。今度は、山形圏域あるいは仙台圏域からの交流拡大や産業振興に関わる部分において期待をしているところであります。東北中央道の山形方面の開通によって、地域間の交通ネットワークが拡大されますので、企業の進出や物流の拡大、広域観光の推進など、経済面での活性化がより期待できるのではな

いかと考えております。

次に、東北中央道の山形方面開通に対する課題についてです。開通によって、山形圏域、仙台圏域からの交流拡大が期待できる訳ですが、その期待に応えられるような魅力ある米沢のまちづくりを進めていかなければなりません。それは今取り組んでいるブランド戦略事業にもつながっていきませんが、一つ一つのものの磨き上げをさらにを行い、来市される皆さんに地域の魅力をどのように感じてもらえるか、このことに力を入れていかなければならないと思っております。

また、交流人口が拡大する一つの機転となるのが、道の駅米沢だと考えております。この道の駅はゲートウェイ型の道の駅で、米沢はもとより、置賜全体あるいは山形県の観光情報も発信するという役割を持っております。広域交流の拡大に向けた取り組みを具体的にどうするのか、そして置賜全体にどのように足を運んでいただくのかという施策についても、今話を進めているところであります。このように、置賜定住自立圏との関わりもありますが、どうやって魅力を増しながら情報を発信していくのかということが一つの課題になってくると思っております。

さらに、道の駅やインターチェンジから市内へ流入してもらうために、道路網の整備は欠かせないと思っております。これについても、しっかりと推進をしていかなければならないと考えております。

もう一つは、これからのインターチェンジ周辺の土地利用ということも課題だと思っております。特に、北インターチェンジ周辺の土地利用では、今後どのようなサービスを提供していくのが重要になってきます。現在、農業振興計画区域を被っている訳でありますので、インターチェンジ周辺の土地利用を考えながら、どういった色染めをしていくのか、都市計画の用途区域をどのように進めていくのかということも大きな課題になってくるのではないかと考えております。

ストロー現象ということも言われておりますので、米沢の魅力拡大にしっかりと対応していかなければならないということが一番の課題だと思います。便利になることは我々にとって本当にありがたいことなのですが、逆のことも考えられますので、そのあたりにも対応しながらまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

次に、「新設米沢市立病院を結ぶ既存道路とのアクセス道路の整備について、どのように考えておられますか」という質問です。市立病院の現地立替という決定をさせていただきましたが、医療の拠点づくりで重要な意味を持つてくるのは、患者さんが早く病院に来ることができる道路網の整備であります。そういった中で、従来進めて参りました万世橋成島線については山形大学工学部前で止まっております。万世の八幡原インターチェンジから市内に流入する一部分は出来上がっておりますが、その間がつながっておりません。高速道路を活かしながら地域の活性化を目指すうえでも、道路網の整備は大切であると申し上げましたが、新病院においても道路網の整備は重要な課題であります。ただ、これについては、重要事業として米沢市から県へお願いしていたのですが、様々な事情等もあり、県の道路整備計画での優先順位は低い方で

した。

今後、置賜総合病院と米沢市立病院が置賜の中核病院となるうえで、どのように交通を確保していくのが重要な課題となってきます。単に道路整備という問題だけではなく、中核病院としての市立病院の医療そのものを充実させていくうえでも、道路網の整備は重要であるということを県知事には申し上げておりました。まだ、正式な発表はされておりませんが、県も県議会の方に道路中期計画を発表したようです。新設米沢市立病院のアクセス道路の整備事業について、その具体的な位置がどのように県の方から発表されるのかということになってくるとお思いますので、早期整備を目指してしっかりと取り組んで参りたいと思います。

市立病院と万世橋成島線から連結するのが、米沢市の都市計画道路である石垣町塩井線です。これはちょうど福田町でT字路になっている県道の米沢駅板谷停車場線と万世橋成島線と接合します。石垣町塩井線は市道でありますので、県の万世橋成島線の整備と併せて、一体となって進めていかなければならないとされているところであります。もちろん住宅もありますので、県の見通しとともに段階を踏みながら整備を進めて参りたいと思っています。

周辺の道路網では、国道287号線の白鷹—米沢間の規格の高い道路を整備していただいておりますが、ようやく川西—米沢間の計画の整備も進むと聞いております。そういったことも県と協力しながら、周囲からの流入に対して道路網の整備をしていかなければならないと考えているところであります。

以上、二つの質問に対してお答えさせていただきました。

○秘書広報課長

それでは、質疑がありましたら幹事社を中心によりしくお願いいたします。

○幹事社

はい。質疑のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

一つ目の項目に関して質問です。北インターチェンジ周辺の土地利用について考えなければならないとのことでしたが、具体的にそのようなことを考えて都市計画を新しく作り直しているのですか。それともこれからなののでしょうか。

○市長

現在、検討しているところです。一番の問題は用途区域をどうするかということにあります。我々、行政だけの判断では進まない部分もありますし、周辺の皆さんからどうあるべきだということをお聞きしながらということになると思います。

○記者

例えば、あそこに道の駅ができたことで、あの周辺の土地利用の都市計画の変更はあり得るのですか。

○市長

先ほど申し上げたのは北インターチェンジ周辺のことでしたが、中央インターチェンジ周辺の都市利用についても、対応を求められる可能性もあると考えております。

中央インターチェンジ周辺も農業振興計画区域を被っている訳であります。道の駅が好調であって、周辺をどのように開発していくのかということも含めて、総合的に考えていかなければならないと思っております。

○記者

道の駅米沢も好調ということですが、山形市内にも新たに二つほど道の駅ができるという話です。山形に大きい道の駅ができるということをどのように捉えていますか。

○市長

山形・上山インターチェンジ周辺に道の駅ができることは前から話を聞いておりました。ただ、道の駅も各地にある訳でありまして、それぞれの道の駅がどのような特徴を出しながら、どのように内容を充実させていくのかということが課題であります。

山形に新しくできる道の駅の近くに物産館があったりして、どのような内容の道の駅を造るのかということは非常に興味を持っておりますが、具体的な内容までは承知しておりません。もちろん消費者にとって魅力のある道の駅ですと、当然、影響を受けるであろうと考えております。

現在、道の駅米沢は順調であります。今のままでずっといくということではなく、お客様にどう魅力を発信していけるのかという点は、これからの道の駅米沢の大きな戦略になってくると考えておりますので、さらに磨き上げをしていかなければならないと思っております。

○記者

東北中央自動車道に関連してですが、東根まで行って空港ともつながるということでもあります。そのメリットやデメリットは何かありますか。

○市長

正直に申し上げますと、一番期待しているのは県で進めている台湾便です。今後、米沢が台湾とどのように結びついていくのかということもありますが、特に、台湾定期便をインバウンド観光にどう結び付けていけるのかということには非常に関心を持っております。置賜総合支庁を通して、台湾との関係を強化していきながら、米沢にもインバウンド観光のお客様を振り向けていただきたいと思います。台湾からのお客様がまっすぐ米沢に入ってくるということになると、そういった対応なども十分考えていかなければならないのだろうなと思っております。

もう一点ですが、高速道路がつながれば山形空港の東京便や大阪便などの搭乗率向上に協力してほしいという依頼も県から来る可能性があります。利便性について市民の人に理解をしていただきながら、搭乗率の増加にも貢献していかなければならないと思っております。

○記者

空港の話が出たのでふと思ったのですが、置賜の方が空港を利用する際、山形空港を使うのですか。それとも福島空港を使うのですか。

○市長

行先によっても違うと思うのですが、基本的に福島空港よりも山形空港を使うので

はないかと思えます。

○記者

距離的にはどうなのでしょう。

○市長

東根にある山形空港の方が圧倒的に近いです。

○記者

置賜の人が空港を使っているという話はあまり聞かないですね。

○市長

東京行だと東根から東京便に乗って行くよりも新幹線に乗った方が早いので、村山周辺の方と違って、利用している割合は少ないと思います。

○記者

例えば、大阪や北海道への出張の場合はどうするのですか。

○市長

北海道ですと今は札幌便ですね。仙台空港の方が山形空港よりも便数が多いので、仙台から北海道に行く方が多いと思います。

○記者

高速がつながればそういう可能性がもっと増えてくるということですね。

○市長

はい。仙台空港から搭乗するというのも増えてくると思います。

○幹事社

他に質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。なければ私から質問です。

米沢には来年50年を迎える大沼米沢店がありますが、経営的に厳しいということでも県議会でも取り上げられ、山形市でも支援をするようです。行政課題としては大きすぎるかもしれませんが、米沢ではどうするのか聞かせてください。

○市長

ここ数年、大沼の件については心配をしておりました。昨年、新たな経営母体ができ、それも見ながら期待もしておりましたが、先日、大沼山形本店での対応について、新たな経営母体と大沼との中で、いろいろな問題が生じてきたということが報道されておりました。そのような中において、山形市では無くしてはいけない施設だということで、山形市長もテレビ画面でどうかご利用くださいという旨の会見をしておりました。

大沼米沢店は来年で50周年を迎える唯一のデパートでありますので、米沢にとってもなくなっては困る施設だと理解しております。多くの市民のみなさんにご利用いただかないと経営の改善にはつながらないだろうと思っております。地元に着いていくうえで一番重要なことは、山形本店同様に多くの消費者のみなさんにご利用いただくことです。いつまでもこの地に残っていくようなデパートとして存在していただきたいというのが今の私の率直な心情であります。

○記者

具体的な支援については何かお考えですか。

○市長

山形本店も当面は多くのお客様にご利用いただきたいということで、そこから先のことには聞いておりません。どのような対応ができるのかについては、若干ではありますがお話をさせていただいた経過もあり、山形店同様に米沢店の存立についても、県との情報交換をしながら考えていくことがあるのだろうと思っております。

○記者

別件の質問ですが、県議選の告示一か月前というタイミングになり、米沢から三人の候補者が名乗りを上げております。どなたか積極的に推薦なさる候補者はいらっしゃいますでしょうか。

○市長

どなたかと言われますと困りますが、三人の県議候補予定者の方々とも以前からいろいろと親しい立場にあり、特別私の県議時代の後継者が誰かということでもありませんので、三県議とは平等にお付き合いをさせていただきたいと考えております。

○記者

話が戻りますが、大沼の件について質問です。具体的な話は来ていないということではよろしいのでしょうか。

○市長

はい。米沢店や山形本店の方から話は一切来ておりません。

○記者

分かりました。別件の質問ですが、体育施設の料金徴収問題について、市長のお考えをお聞かせください。

○市長

基本的には利用者にとって使いやすい方法で、料金体系を検討していかなければならないと思っております。新聞記事によると、あまりにも大雑把な時間帯で区切っているとのことでした。それは反省点として、今後、どのような料金体系を作り上げていくのか大きな課題として認識させていただきました。

○記者

教育委員会は料金の二重取りではないと認識しているようですが、その辺はどうですか。

○市長

はい。それまでの経過をお聞きしましたが、例えば、予約していた時間帯よりも、体育館の利用を早くお止めになった方の残り時間があつたとします。その残り時間をどうしても使わせて欲しいという人がいて、それは話し合いの中でこういう料金がかかって参りますよということであると、二重徴収ではないと理解しております。それはあくまでも話し合いの中で進めていただくことであって、前に利用していた方との調整も一定程度必要になると思っておりますが、そういったことがしっかりと料金体系の中

に至っていなかったということに反省するところがあると思っております。

あまりにも大雑把な時間帯による料金体制ですと記事でおっしゃったことが発生する場合がありますので、そこはしっかりと規定するなり対応したいと思えます。

○記者

最後に、体育施設の料金体系を消費増税が始まる10月を目途に変えていきたいという教育委員会の話でしたが、それより早めにやりなさいという市長の判断はあるのですか。それとも現場に任せるのですか。

○市長

今、初めてお聞きしたので消費増税のタイミングで変更する根拠が分かりませんが、難しいことではなく、時間をかけないでできると思えますので、私の方からなぜ消費増税の時期なのか詳細を聞きたいと思えます。

○記者

現場に指示するということですね。

○市長

はい。話はします。

○記者

分かりました。

○記者

3月11日が近付いておりますが、被災者支援で米沢市は新しい取り組みとか廃止するものはなにか考えておりますか。

○市長

被災者支援については、今のところ、被災者側からもお話はお聞きしておりません。また、今日の市政方針でも申し上げましたように「避難者支援センターおいで」の継続は行いますが、その他の支援策をどうするのかについてはまだ深まっておりませんので、これまで継続していた支援は行いたいと考えております。

○幹事社

その他、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで平成31年2月の定例記者会見を終了いたします。